

http://www.minamih.net/



12・12・23(月)  
南NEWS NO71

先日、拙宅に南元コーチ・現 Jrユース農業体験指導者の川嶋さんがダイコンと中1の子ども達書いたサツマイモ収穫体験の感想文を届けてくださいました。

早速、大根1本を葉はジャコと炒めてふりかけに、実はおでんの種にして、3分の1は拍子木りにして塩昆布とおかか・すりごまをまぶして即席漬けにしました。皮はきんぴらにしてその日の夕飯でいただきました。思い半ばで亡くなった松田 Jrユース前監督の志を大切にしてくださいる川嶋さんの優しさも一緒にかみしめながらいただきました。

たくさんの皆様子ども達を想う優しさと強さに支えられた南の1年がもうすぐ終わります。……。

本当に有り難うございました。お疲れ様でした。

皆様、良いお年をお迎えください。  
南八王子SC代表 矢上健一



## 2013年度 GAMBA 賞

飯島 桃子さん(6年)：ゴールキーパーとして、多くのピンチからチームを救っています。お父さんやお兄さんとかなり練習したのでしょう。この1年間の上達ぶりは著しいものがありました。キャッチングだけでなく、ポジショニング、ゴールキック、そして大きな声でのコーチングなどキーパーに必要な技術が全て向上し、八王子選抜でも活躍しています。

## ○ Jrユース

岡部 蒼君(2年)：右サイドの超特急。右サイドバックとしての確かなカバーリングでチームの窮地を何度も救ってくれました。

基本を大切に、更なる飛躍を期待しています。

阿部 聖也君(1年)：チームの中で一番多く練習や試合に参加しているその姿勢は素晴らしい。チームメイトも一目置く存在である聖也は、普段は感情を表に出さないが、ひたむきに努力するGAMBAり家です。

## 2013年度 ドリブルチャンピオン賞

加々美 伸英君(3年)：加々美君のドリブル突破は、スピード、テクニックを十分に活かした迫力のあるドリブルが特徴です。一度ボールを持つと、ゴールに向かって3人、4人と次々に抜き去り、グングン加速し、沢山ゴールを決めてくれました。これからもすごいドリブルをたくさん見せてほしいと思います。

(文：野崎コーチ)

小松 紅希君(4年)：小松君は4年生のキャプテンを務めています。秋季リーグではディフェンスの最終ラインから相手ペナルティエリアまで、スピードあるドリブルで相手を抜き去りシュートまで行きました。練習においても集中して取り組んでおり、もっと技に磨きをかけて欲しいと願っています。

(文：小松コーチ)

前川 遙人君(5年)：2回もの怪我にも負けずGAMBAっています。市民体育祭予選リーグ対南大沢戦のハットトリックは相手陣内を鋭いドリブルで突破してゲットした3点です。どれも左サイドからの見事なドリブルシュートでした。

たくさん持っている技をさらに磨いて日本のメッシを目指してください。

村田 莉菜さん(少女5年)：常にお手本となるドリブルを見せてくれます。まずスクリーンが上手で、ボールを簡単に失いません。V字・クライフターンで左右に揺さぶり、ダブルタッチやシザーズ時にはルーレットで相手をおかします。そして、かわした後のスピードに乗ったドリブルは止まりませんでした。相手は力で止めるしかなく、受けたファールもチーム一だったと思います。

## 2013年度 特別賞 GAMBAノート賞

大澤 一晴君(4年)：ドリブルと足元がうまくなっています。近頃の試合では毎試合のように得点を決めています。ガンバノートは毎週出してくれます。ガンバノートに自分の努力や試合で気づいたことを書くことを続けることは、大澤君の大きな成長につながると思います。

(文：伊藤コーチ)

## 2013年度 特別賞 午後練GAMBA賞

山本 裕喜君(6年)：夏のむさしの山中湖招待の予選リーグ、優勝した西原との1戦。0-2から1点を返した得点は、MFのセンター山本君が中盤を創って得点も決めた見事なものでした。西原から点を取ったのは決勝で対戦した神奈川のパーシモンと南だけです。西原の溝田監督が大声を出して怒っていました。

午後練ではみんなを引っ張り、星形のドリブル練習では技をかけた後のランウイズボールの速さはピカールで、他の模範となるものです。“それが試合に出たら誰も止められないのにな”と矢上はいつも言っています。コーチの皆さんも言っていますよ。「ヤマモが中盤でGAMBAらないと南は勝てない」と。

午後練の始め、いつも早めに行くのですが、矢上が少し遅いと倉庫の鍵を開けてくれるキャプテン山本君。午後練が終わり、ボールやコンを倉庫に入れて最後の鍵を掛けてくれるのもいつも山本君です。ありがとう！！



先日、矢上がある教育関係者・近々に校長先生になる人に送った手紙の一部です。

これからの日本・子ども達の未来はどうなるのでしょうか。日本の現状を見ると憂えざるを得ないものがあります。教育者としての生き方も問われますね。



浜田知明さん

これからの日本・子ども達の未来を考える時、いろいろな見方・考え方がありますが、大人として如何に今を生きるかを問われますね。

版画家・彫刻家 浜田知明さんが以下のように述べています。…最近の日本は戦前を想起させる空気に急速に傾いています。権力を握った政治家は思い通りの国をつくらうとする。本来は、まず国民があつて国づくりをすべきなのに、今は国ありきで、そこに国民をはめこもうとしている。非常に危ない感じがします。

一番大切なのは自由にものが言える社会であることです。物事を自由に考え、疑問を呈したり、批判したりする人達を迫害する社会に戻ってはなりません。そのために、作品を通じて美術家にもできることがある。そう信じて、もう少しやってみます。…

13・12・20 朝日新聞夕刊 “人生の贈りもの”より